

令和7年度 地域連携アクティブスクールの入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 14

千葉県立泉高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

自立した社会人になるために高校で頑張ろうとする強い意志を持ち、入学後に基本的な生活習慣を確立させ、学校に誇りを持ってどんなことにもあきらめずに挑戦する。また、社会のルールを守り、社会貢献を目指すとともに、学校の指導に素直に従い、かつ、次のいずれかに該当する生徒

ア 基礎学力を身につけるために意欲的に学習し、粘り強く地道な努力ができる。

イ 中学校在籍時に部活動・特別活動等に積極的に取り組んだ実績があり、入学後も3年間継続して行う強い意志がある。

ウ 進路の実現に向けて、キャリア教育や体験学習に積極的に取り組む。

2 選抜の資料

(1) 学力検査	3教科(国語・数学・英語)の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
①面接	受検者1名・評価者2名の個人面接 検査時間：1人7分
②作文	字数：280字以上400字程度 検査時間：40分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔300点満点〕

評価項目	評価基準
ア 3教科の得点合計	3教科(各教科100点満点)の合計300点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔230点満点〕

アの数値に、エについて加点(上限50点)したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	1・2学年全教科の評定を合計した値と、3学年全教科の評定の合計を2倍した値との合計値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間で30日を超える欠席は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○の数が2個以下の場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録 部活動の記録及び 特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については50点を上限として加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査〔210点満点〕

①面接〔180点満点〕

2名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（やや問題がある）・d（問題がある）の4段階で評価する。
aを30点、bを20点、cを10点、dを1点とし、2名の評価者の評価（各90点満点）を合計し、得点化する。120点未満の場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望動機	本校を志望する動機・意欲が明確である。
イ 質問に対する応答	丁寧な言葉遣いをする努力が感じられ、質問の内容に見合った答えができる。
ウ 面接に臨む態度	基本的な面接作法が身につけている。 服装・態度等に問題がない。

②作文〔30点満点〕

3名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、アについては、a（適切である）・b（適切でない）の2段階で、イについても、A（適切である）・B（適切でない）の2段階で評価する。

aを4点、bを1点、Aを6点、Bを1点とし、3名の評価者の評価（各10点満点）を合計し、得点化する。16点未満の場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 文章量	指定した字数に対して不足がなく、適切な文章量である。
イ 内容	与えられたテーマに対して内容が適切である。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」、「面接の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、原則として、募集人員までを入学許可候補者とする。

学力検査の得点	調査書の得点		面接の得点	作文の得点	総得点
	評定	加点			
300点	180点	50点	180点	30点	740点

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。